

—九州地区ニュース—

今年度は、長崎地域、福岡地域で各園の状況に応じて交流をしてきました。

年齢別交流は、前期・後期の2回行うことができました。前期は、各年齢保育園の見学もでき、0歳児、1歳児は後期も園に行けました。絵を見ながら日々の保育を語り、悩みを出し合うことで今後の保育に繋がっていききました。今年から主任会もでき、日々の悩みを主任会で語り合うことができました。

○船越康弘先生をお招きしての研修会

「百姓屋敷わら」船越康弘先生の重ね煮の調理実習と講演会に参加しました。重ね煮は自園でも給食を



を作る時に用いている料理法です。

実習では美味しさの秘訣である野菜を重ねる順番、包丁の持ち方、切り方、姿勢などを教えて頂きました。また、細かい部分の質問にも答えて頂くことができとても実りのある学びになりました。

午後からの講演会では「私たち人間の食生活は自然が与

えてくれているものなので自然に迷惑をかけてはいけない、前にある幸せや豊かさに感謝できる人である事が大切だとお話されました。実習後は以前よりも料理をする時に素材を丁寧に扱うようになりました。

今後は重ね煮を通して日々子ども達が元気に過ごせる給食を作っていきたいと思いました。

ひいらぎ保育園 平川 知江



○九州交流合宿に参加して（福岡・夜須青少年自然の家）

昨年11月28日～30日、2泊3日の日程で年長交流合宿に参加しました。（8ヶ園、年長児83名、保育者20名、保護者6名）

コロナ感染症5類への移行を伴い、九州の年長交流保育も活動を再開しています。3年前までは、9～

10ヶ園が一堂に集まり年間5～6回の交流合宿を行なっていました。現在ではコロナ問題にかかわらず各園の状況や移動距離の問題など、九州全域での交流を行うための条件が厳しい現状から、リズム交流としては、福岡地域、長崎地域の二つの地域に分かれた形で展開しているところです。

私たち桜花保育園は長崎4園での交流を拠点にしつつも、“より大きな集団に子どもたちを出会わせたい”という思いから、今回の夜須合宿に参加しました。

初日、私たちが体育館に到着すると、一人ずつ出発をする縄跳びのリズムが始まっていました。すぐに誘われるまま、いきなりの縄跳びでしたが一人もしり込みすることなく、自分の縄跳びをやり切りました。その姿がとても見事で、子どもたちの成長を感じた場面でした。



3日間のリズムや歌、映画や絵本の読み聞かせ、馬頭琴コンサートなど充実した内容に集中する子どもたちの姿が印象的でした。その中で特に私が感動した場面は、保育者たちが子どもたちの前に立ち合唱していた時の光景でした。保育者たちの凛とした顔、歌声、それに聞き入る子どもたち、お互いの気持ちの高まりを感じていたと思います。私自身もその中にいましたが、一歩離れて感動して見ている感覚になりました。

夜の全体会の後、担任たちだけで話ができただけのも有意義でした。初日は、担任たちの座席が離れたままで、全体で集まるまでに時間がかかりましたが、2日目には、お互いに自園の気になる子どもの捉え方や疑問などを自由に情報交換し合い、8ヶ園の担任たちの気持ちが近くなっていると感じました。その中で「明日は最終日だね」「せっかくの交流の場だからみんなで一緒に遊んでみようよ」と担任主導の活動プランが固まったのです。最終日の朝の楽しかったこと！担任たちが自主的に戸外へ出て「増やし鬼」が始

まりました。昼食後の「編かけた」も大成功。

子どもも大人もみんなが大歓声で体育館中を走り回りました。午後のリズムに食い込むくらい盛り上がりぶりで、担任たちも自分たちで作った全体あそびに満足していたようでした。

また保護者については、つばみ幼稚園・保育



園の6名が日替わりで参加してくださいました。食事の準備やかたづけ、部屋の掃除、おやつ準備などいたるところで合宿をサポートくださり、まさに緑の下の力持ちといったところで本当に感謝です。

私は、夜須での保育に参加して、改めて大人たちが同じ方向を目指して力合わせをする保育と交流を合うことの大切さを感じました。

桜花保育園 藤田由紀子

○12月年長交流合宿を終えて（南関B&G）

（参加園7ヶ園 3ヶ園に宿泊：たかとり保育園、ひいらぎ保育園、つばみ幼稚園・保育園）

コロナ前は久留米や大牟田の園に合宿していましたが、コロナになり難しくなっていました。今回は大牟田、久留米の保育園の協力もあり、3園に他の4園が分散宿泊しながらも、食事は同じメニューで給食室にも協力してもらい、みんなと一緒に泊まっているような一体感を持つことができました。

初日は、雪の予報もあり、「本当に交流ができるのだろうか」と保護者からの不安な声もありましたが行くことができました。今回は宿泊できるということで「今度のお泊りは○○保育園にお泊りだよ」と伝えると「今度はいつ?」「あと何回寝たら?」「どこにあるんだろう」と泊ることをワクワクして待ちました。向かってくれる園の子どもたちも「あそこを案内しよう」「○○を覚えてあげよう」と楽しみにして

いたと聞きました。園内に宿泊することで、ゆっくり子どもたちのペースで動くことができました。

映画「黄金のかもしか」を見た後、カモシカ大会で男性保育士がリズムのカモシカを力強く跳びその迫力に子どもたちは「すごいね!」「高く跳んでた!」と驚き、感動していました。自園は、ホールも狭く、男性保育士

もいないので、子どもたちが体感できたことに感謝です。夜は、保育士たちと話し合いの場も持ち、子どもたちの様子や担任同士の悩みなど打ちあけあうことができました。他園に宿泊している園ともリモートをつなぐことで話し合いがより一層深まり、共有することができました。他園の保育士からも、同じグループになった子どもの交流時の様子が聞けて、普段の園での様子なども共有することができました。もらったアドバイスは、自園の保育に繋がりたいです。

2日目は、朝から冷え込み、焚火のまわりで鬼ごっこが始まり焼きミカンを食べました。久留米からの子どもたちは、朝から雪合戦をしてきたと嬉しそうに教えてくれました。体育館に到着後、雪が降り始め、みんなで外に出て、「こな雪」を歌いながら雪と戯れました。あまり雪が降らない九州地方にとって、交流仲間たちと雪に触れたことは特別な思い出です。新しいリズム「蝶」で、前に出て教えてくれる大人の指先までしっかり見て「覚えない」「できるようになりたい」「表現したい」と思う気持ちが素敵でした。



今回は、吉村安見子さんの「どんぐりと山猫」の一人劇を鑑賞することができました。子どもたちは、ピアノ演奏に耳を傾け、「森は生きている」は一緒に歌い、「どんぐりと山猫」は夢中になってお話を聞いていました。なかなか触れることのできない文化に私たち大人も一緒に触れることができ感動しました。

帰園のタクシーで、普段はテレビなどの話が多い男児が、「闇をきりさく」を歌い始めたことに担任と驚きました。私たちも歌詞を覚えてなく、子どもたちと思い出しながら歌い、「みんなでしっかり覚えよう」「いっぱい歌おう」と話しながら帰ってきました。せっかく覚えたと言ってくれた男児に私が伝えられなかったことに申し訳なく反省しました。帰園後、絵を描き、なかなか絵に向かえない子どもたちが今回覚えてきた「蝶」の指先を描いていました。普段は私たちから、他の職員に「絵をみせておいで」と声を掛けていましたが、今回は、自分たちから「見せてくる」と言い、「蝶の手はこうするんだ」「ここが難しい」と蝶をしながら教えあっていました。今回の交流で子どもの想いや力を信じ、焦ることなく待つことが大事だと思いました。



二の丸保育園 高崎 翔子